

DX検定™

日本イノベーション融合学会

第13回 『DX検定™』（日本イノベーション融合学会） 検定結果と検定概要について

2024.8

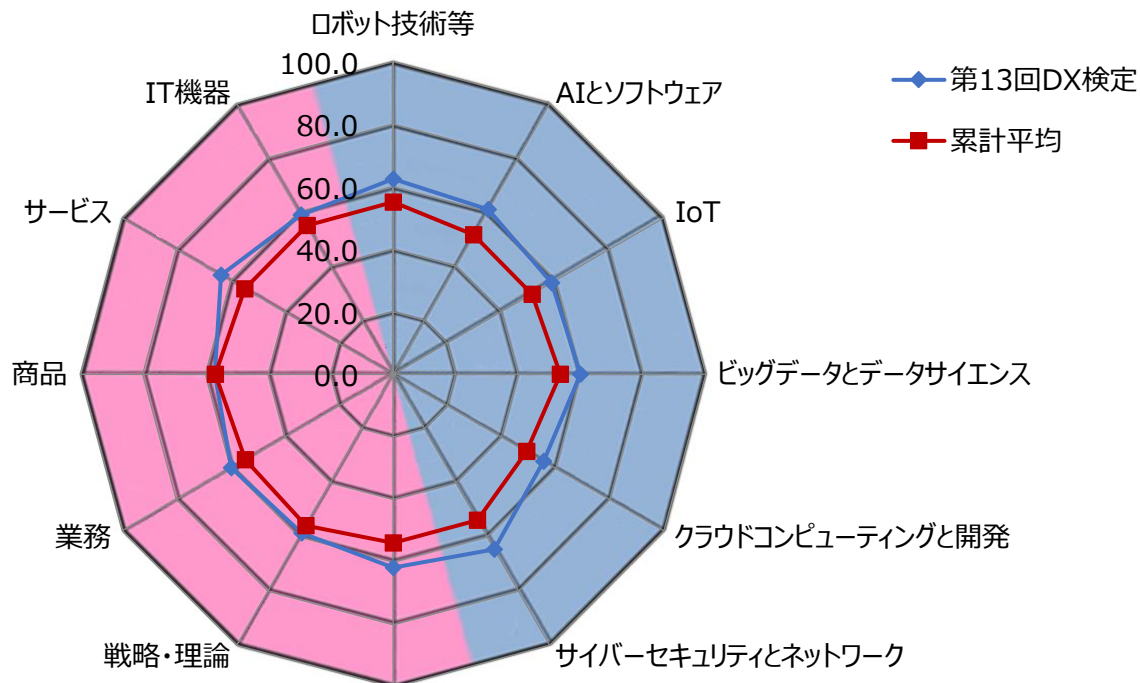
日本イノベーション融合学会／DX検定™小委員会
検定事務局：株式会社ネクストエデュケーションシンク

1. 本検定（第13回）の実施概要

名称	『DX検定™』（日本イノベーション融合学会）	
開催日	（法人） 2024年7月11日（木） （個人） 2024年7月14日（日） ※その他法人特別開催含む	
形式	WEB検定	
概要	IT先端技術トレンド（IT）とビジネストrend（BT）の知識検定	
試験概要	60分間で120問の知識問題（多肢選択式）	
出題領域	IT先端技術トレンド（IT）の6分野とビジネストrend（BT）の6分野	
	【IT先端技術知識トレンド】 1. AIとソフトウェア 2. IoTとハードウェア 3. ロボット技術等 4. ビッグデータとデータサイエンス 5. クラウドコンピューティングと開発 6. サイバーセキュリティとネットワーク	【ビジネストrend】 7. 次世代ビジネストrend 8. 戦略・理論（思想としてのIT） 9. 業務（仕組みとしてのIT） 10.商品（商品としてのIT） 11.サービス（サービスとしてのIT） 12.IT機器（道具としてのIT）
受検の前提	なし	

2-1. 第13回検定採点結果（全体平均）

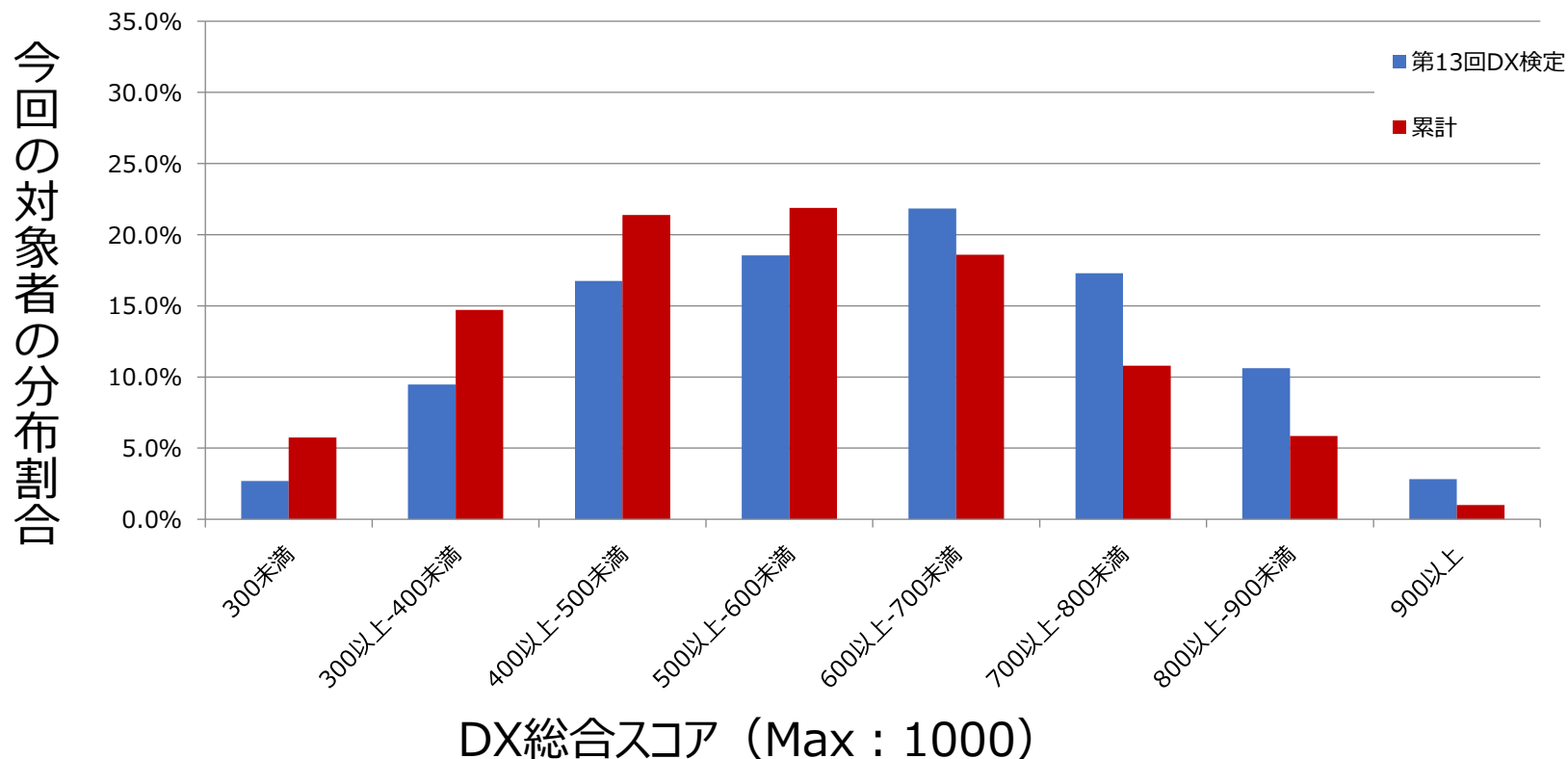
【第13回平均】DX検定スコア 602 （ITスコア 302 / BTスコア 300）



※累計：第1回～第13回

項目	区分 (スコア)			IT (得点率)						BT (得点率)					
	DX検定 総合スコア	IT	BT	ロボット技術等	AIとソフトウェア	IoTとハードウェア	ビッグデータとデータサイエンス	クラウドコンピューティングと開発	サイバーセキュリティとネットワーク	次世代ビジネストレンド	戦略・理論	業務	商品	サービス	IT機器
第13回平均	601.6	301.9	299.7	62.5	60.8	58.5	59.9	55.5	64.6	61.8	58.5	59.7	57.0	63.4	58.9
累計平均	538.4	262.4	276.0	55.1	51.5	51.3	53.5	49.3	53.8	53.9	55.9	54.5	56.8	54.7	55.0

2-2. 第13回検定採点結果（得点別人数分布割合）

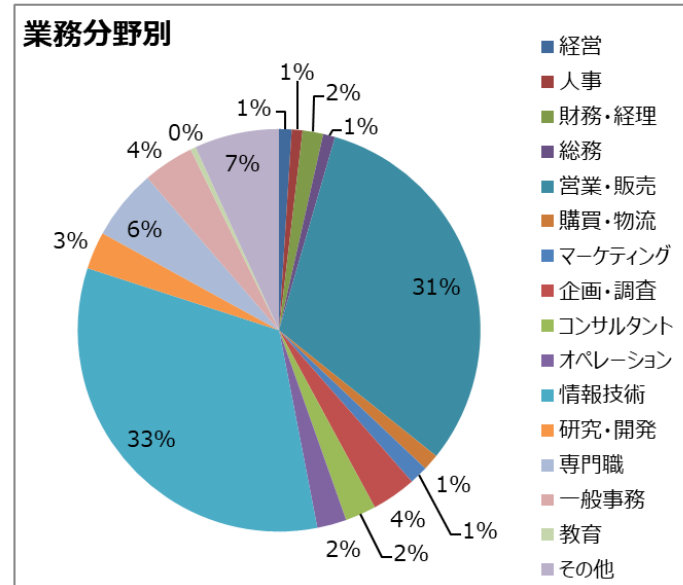
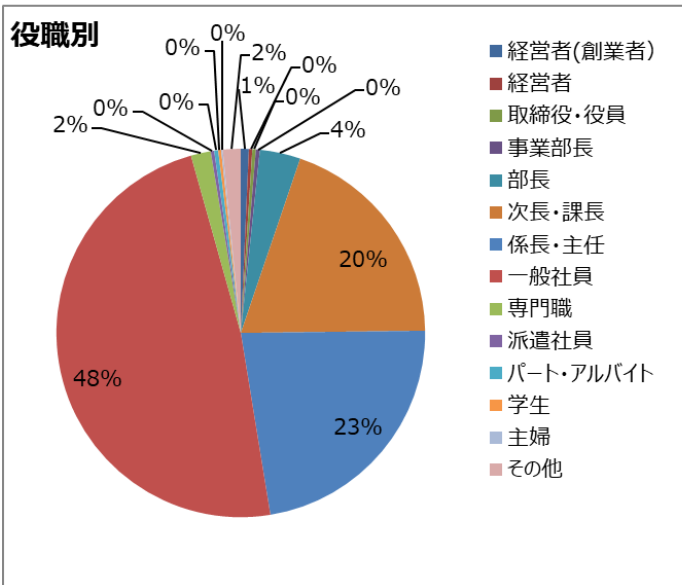
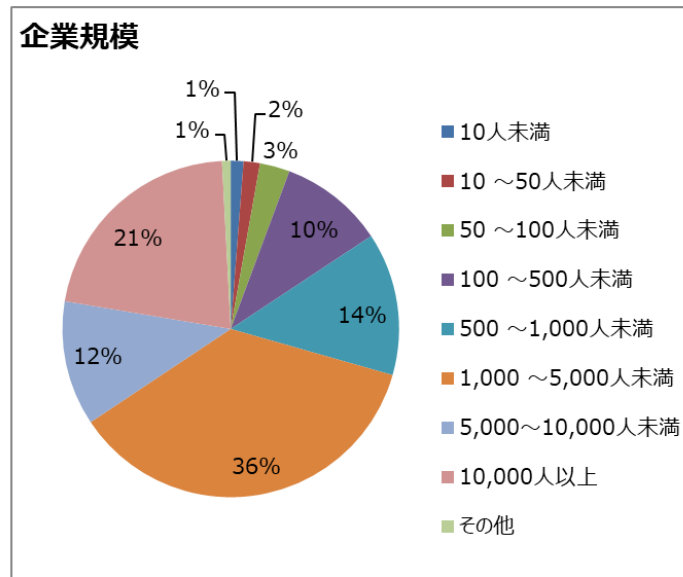
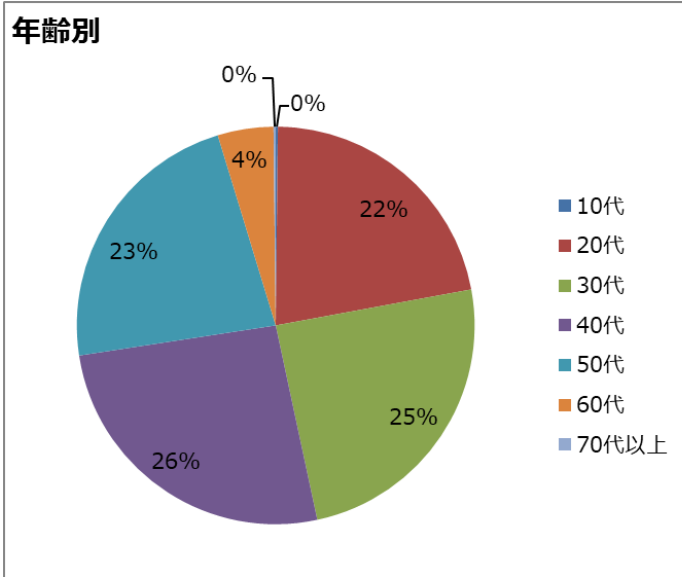


【認定者割合】

認定クラス	第13回	累計
DXプロフェッショナル レベル（800以上）	13.4%	6.8%
DXエキスパート レベル（700～799）	17.3%	10.7%
DXスタンダード レベル（600～699）	21.8%	18.5%
未達	47.4%	64.0%

3. 【参考】受検者 属性-1

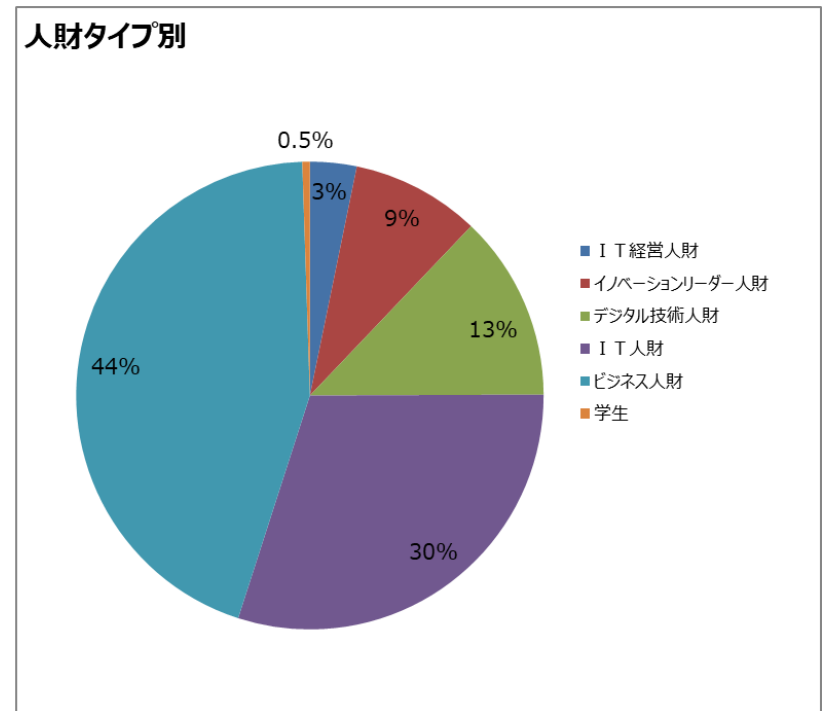
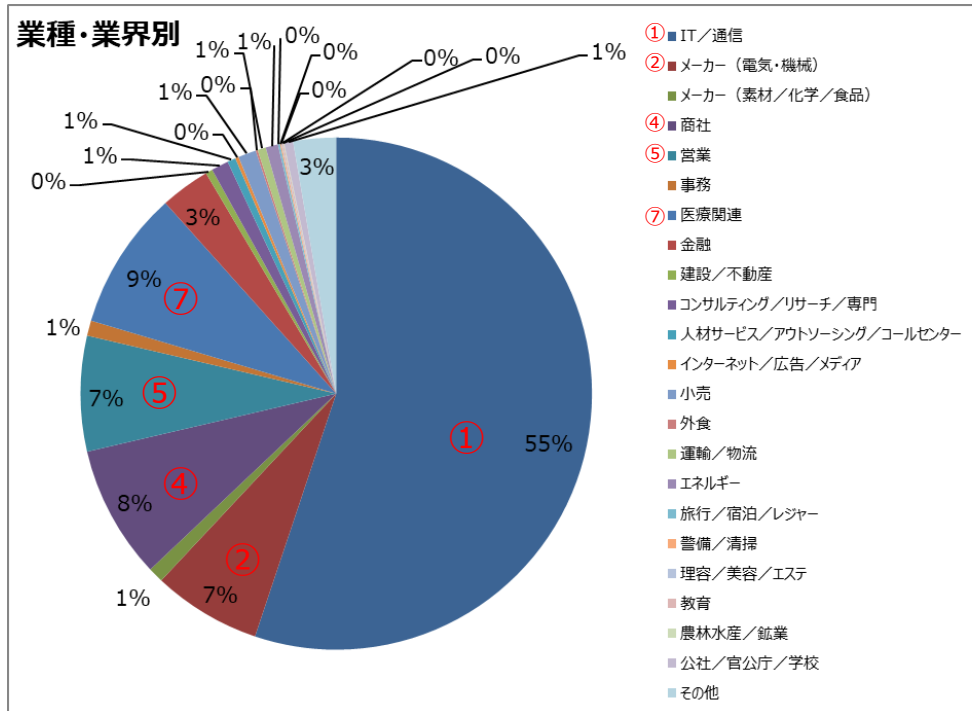
(第13回)



※受検者属性は、受検時に受検者が属性アンケートにて回答頂いた内容の集計です。

3. 【参考】受検者 属性-2

(第13回)



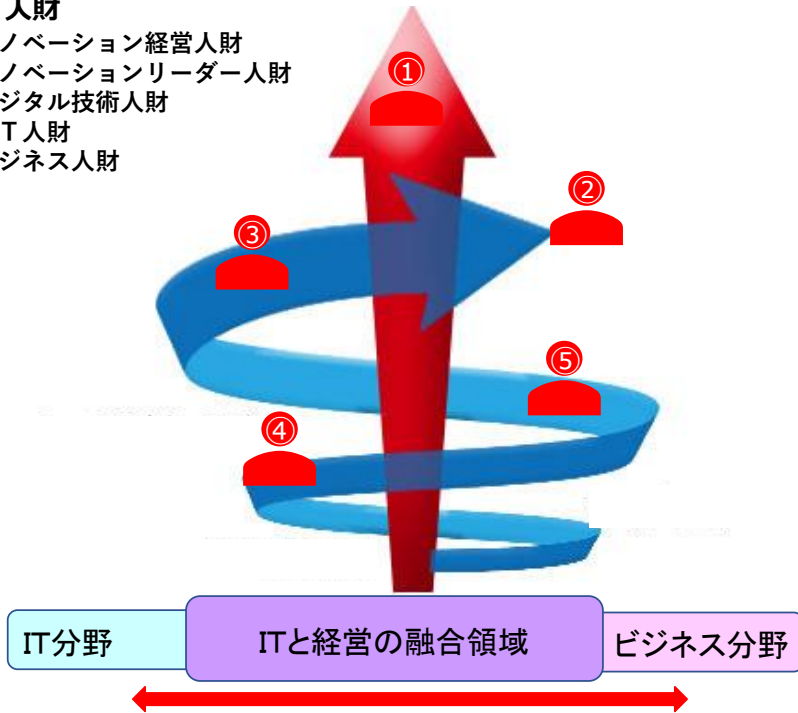
※受検者属性は、受検時に受検者が属性アンケートにて回答頂いた内容の集計です。
 また、DX人財タイプは、ご自身の業務タイプに近いものを回答されています。

4. 「DX検定™」における「DX人材」とは

DX人材の能力アップ

DX人材

- ①イノベーション経営人材
- ②イノベーションリーダー人材
- ③デジタル技術人材
- ④IT人材
- ⑤ビジネス人材



- 左図は、ITと経営の融合領域を拡大させることにより、デジタルトランスフォーメーション時代においてDX人材の能力アップをさせることを表しています。
- DX人材は、IT分野の方がビジネス（経営）分野の重要性を理解し、ビジネス分野の方がIT先端技術の必要性を理解する、すなわち「ITと経営の融合領域」の中に位置づけられます。
- 経営者から現場の担当者まで、IT先端技術を理解しビジネス問題の解決にあたり、新たな製品・サービスの開発にIT先端技術を活用するビジネス環境を想定しています。このようなビジネス環境で、DX人材（①～⑤）がどのように位置づけられるかを右の図中に示しています。

DX人材	概要
イノベーション経営人材	経営にITを活用し、イノベーション、デジタルビジネスを実践する 経営者/専門家
イノベーションリーダー人材	経営変革プロジェクトを推進・実施する イノベーションリーダー
デジタル技術人材	イノベーションプロジェクトでデジタル技術を活用し、 価値創造を実現する技術者
IT人材	IT技術を基盤としたプロジェクトで IT先端技術を実装する技術者
ビジネス人材	現場において、IT先端技術で ビジネス問題解決に従事する担当者または管理者

5-1. 日本イノベーション融合学会「DX検定™小委員会」による「DX検定™」シリーズの目標スコアレベル (Ver3.0) (参考)

■ 活用方法

社内のDX人材育成の目標として、人事部・人材開発部等での人材育成における経年での効果測定、DX部門やDXプロジェクトの人材選抜に、社内の社員のDX学習ムードの醸成に、ベテラン社員のリスクリングのきっかけに、社内のDX人材認定の評価指標の1つとして等、ご活用いただいております。

■ 「DX検定™」「DXビジネス検定™」 認定レベル (※認定レベルは2年間有効)

スコア	認定レベル
800以上	DX、DXビジネス プロフェッショナル レベル
700以上	DX、DXビジネス エキスパート レベル
600以上	DX、DXビジネス スタンダード レベル

IPAの定義によるDX推進人材像 (例) ※1	
人材の呼称例	人材の役割
プロデューサー	DXやデジタルビジネスの実現を主導するリーダー格の人材 (CDO含む)
ビジネスデザイナー	DXやデジタルビジネスの企画・立案・推進等を担う人材
アーキテクト	DXやデジタルビジネスに関するシステムを設計できる人材
データサイエンティスト	DXやデジタル技術 (AI・IoT等) やデータ解析に精通した人材
UXデザイナー	DXやデジタルビジネスに関するシステムのユーザー向けデザインを担当する人材
エンジニア/プログラマ	上記以外にデジタルシステムの実装やインフラ構築を担う人材

「DX検定™」シリーズ 標準 目標スコアレベル	
DX検定™	DXビジネス検定™
850以上 (CDOは900以上)	850以上 (CDOは900以上)
800以上	800以上
800以上	800以上
750以上	750以上
700以上	700以上
650以上	650以上

※1 (赤枠内部分)

出典：独立行政法人情報処理推進機構「デジタル・トランスフォーメーション推進人材の機能と役割のあり方に関する調査」(2019年5月17日) 」

5-2. 「DX検定™」／「DXビジネス検定™」企業での 事業・部門別／職務・役職別目標スコアレベル（参考指標）（Ver3.0）

■「事業会社/ベンダー・コンサル系企業」別の参考値（目安）（日本イノベーション融合学会「DX検定™委員会」目標スコアレベル）

IPAの定義によるDX推進人材像	事業会社						ベンダー・コンサル系企業	
	システム部門		事業部門		デジタル戦略系部門		受託開発・コンサル	
	DX検定	DXビジネス検定	DX検定™	DXビジネス検定™	DX検定™	DXビジネス検定™	DX検定™	DXビジネス検定™
人材の呼称例								
プロデューサー	850	850	800	900	850	900	900	850
ビジネスデザイナー	800	800	750	900	850	850	850	800
アーキテクト	800	800	-	-	800	800	850	800
データサイエンティスト	750	750	750	750	800	800	800	750
UXデザイナー	700	700	700	700	800	700	750	700
エンジニア/プログラマ	650	650	-	-	700	700	700	650

V20240119

■企業階層別 目標スコアレベル（目安）※各企業にて調整の上、ご活用下さい

階層（例）	事業会社	
	DX検定™	DXビジネス検定™
経営層（取締役、執行役員）	750	800
事業部長	800	850
部長	700	800
課長	650	750
係長	600	700
一般社員	550	650
新入社員	500	600

■「DX検定™」
「DXビジネス検定™」 認定レベル

スコア	認定レベル
800以上	DX、DXビジネス プロフェッショナル レベル
700以上	DX、DXビジネス エキスパート レベル
600以上	DX、DXビジネス スタンダード レベル

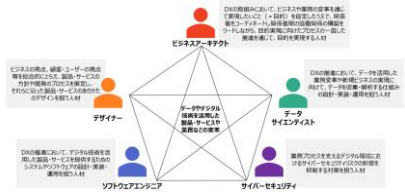
（※認定レベルは2年間有効）

V20240119

5-3. 『デジタルスキル標準』ver1.2(2024年7月) 「DX推進スキル標準」人材類型・ロール別のスコア参考値(目安)(参考)

(日本イノベーション融合学会「DX検定™委員会」目標スコアレベル)

※右のURLよりダウンロード可能です URL:<https://www.nextet.net/column/dx/dxkenteiseries04.html>



人材類型	ロール	DX推進において担う責任
ビジネスアーキテクト	ビジネスアーキテクト (新規事業開発)	新しい事業、製品・サービスの目的を見出し、新しく定義した目的の実現方法を策定したうえで、関係者をコーディネートし関係者間の協働関係の構築をリードしながら、目的実現に向けたプロセスの一貫した推進を通じて、目的を実現する
	ビジネスアーキテクト (既存事業高度化)	既存の事業、製品・サービスの目的を見直し、再定義した目的の実現方法を策定したうえで、関係者をコーディネートし関係者間の協働関係の構築をリードしながら、目的実現に向けたプロセスの一貫した推進を通じて、目的を実現する
	ビジネスアーキテクト (社内業務高度化・効率化)	社内業務の課題解決の目的を定義し、その目的の実現方法を策定したうえで、関係者をコーディネートし関係者間の協働関係の構築をリードしながら、目的実現に向けたプロセスの一貫した推進を通じて、目的を実現する
デザイナー	サービスデザイナー	社会、顧客・ユーザー、製品・サービス提供における社内外関係者の課題や行動から顧客価値を定義し製品・サービスの方針(コンセプト)を策定するとともに、それを継続的に実現するための仕組みのデザインを行う
	UIUXデザイナー	バリュープロポジションに基づき製品・サービスの顧客・ユーザー体験を設計し、製品・サービスの情報設計や、機能、情報の配置、外観、動的要素のデザインを行う
	グラフィックデザイナー	ブランドのイメージを具現化し、ブランドとして統一感のあるデジタルグラフィック、マーケティング媒体等のデザインを行う
データサイエンティスト	データビジネスストラテジスト	事業戦略に沿ったデータの活用戦略を考えるとともに、戦略の具体化や実現を主導し、顧客価値を拡大する業務変革やビジネス創出を実現する
	データサイエンスプロフェッショナル	データの処理や解析を通じて、顧客価値を拡大する業務の変革やビジネスの創出につながる有意義な知見を導出する
	データエンジニア	効果的なデータ分析環境の設計・実装・運用を通じて、顧客価値を拡大する業務変革やビジネス創出を実現する
ソフトウェアエンジニア	フロントエンドエンジニア	デジタル技術を活用したサービスを提供するためのソフトウェアの機能のうち、主にインターフェース(クライアントサイド)の機能の実現に主たる責任を持つ
	バックエンドエンジニア	デジタル技術を活用したサービスを提供するためのソフトウェアの機能のうち、主にサーバサイドの機能の実現に主たる責任を持つ
	クラウドエンジニア/SRE	デジタル技術を活用したサービスを提供するためのソフトウェアの開発・運用環境の最適化と信頼性の向上に責任を持つ
	フィジカルコンピューティングエンジニア	デジタル技術を活用したサービスを提供するためのソフトウェアの実現において、現実世界(物理領域)のデジタル化を担い、デバイスを含めたソフトウェア機能の実現に責任を持つ
サイバーセキュリティ	サイバーセキュリティマネージャー	顧客価値を拡大するビジネスの企画立案に際して、デジタル活用に伴うサイバーセキュリティリスクを検討・評価するとともに、その影響を抑制するための対策の管理・統制の主導を通じて、顧客価値の高いビジネスへの信頼感向上に貢献する
	サイバーセキュリティエンジニア	事業実施に伴うデジタル活用関連のサイバーセキュリティリスクを抑制するための対策の導入・保守・運用を通じて、顧客価値の高いビジネスの安定的な提供に貢献する

DX検定™	DXビジネス検定™
830以上	850以上 (CDOは900以上)
830以上	830以上
800以上	750以上
700以上	750以上
700以上	700以上
700以上	700以上
750以上	780以上
730以上	750以上
700以上	700以上
650以上	650以上
650以上	650以上
650以上	650以上
650以上	650以上
750以上	680以上
700以上	630以上

※1 (赤枠内部分) 出典：独立行政法人情報処理推進機構「デジタルスキル標準』ver1.2(2024年7月)

6-1. 本検定を受検された方のスキルアップ／参考図書

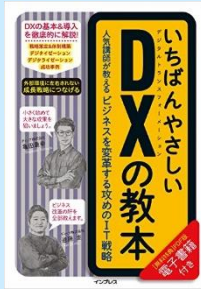
「DX検定™」は、IT先端技術とビジネストレンド知識の検定試験であり、「DX検定™」が、それらの知識レベルを高め、「DX人財」になるための出発点です。そして、IT先端技術とビジネストレンド知識の理解度を高め、目標となる「DX検定スコア」を取得するためには、継続的な学習が不可欠です。

以下に、参考図書をご紹介します。（※参考書、eラーニング教材は予告なく最新のものに更新されます）

V202402



「図解コレ1枚でわかる 最新ITトレンド 装改訂4版」
(株式会社技術評論社)



「いちばんやさしいDXの教本」
(インプレス)



「イラスト&図解でわかるDX (デジタルトランスフォーメーション)」
(彩流社)



「インターネット白書2023 分断する世界とインターネットガバナンス」
(インプレスNextPublishing)



NEW
「日経テクノロジー展望2024 世界を変える100の技術」
(日経BP)



NEW
「ChatGPT産業革命」
(日経BP)



「DX白書2023 進み始めた「デジタル」、進まない「トランスフォーメーション」」
(独立行政法人情報処理推進機構 (IPA))



「業界別! AI活用地図8業界36業種の導入事例が一目でわかる!」
(翔泳社)



NEW
「AI白書2023」
(株式会社KADOKAWA)



「この一冊で全部わかる ビジネスモデル 基本・成功パターン・作り方 一気に学べる」
(SBクリエイティブ)



「DX実行戦略 デジタルで稼ぐ組織をつくる (日本語)」
(日本経済新聞出版)

6-2. 本検定を受検された方のスキルアップ／eラーニング

「DX検定™」は、IT先端技術とビジネストレンド知識の検定試験であり、「DX検定™」が、それらの知識レベルを高め、「DX人財」になるための出発点です。そして、IT先端技術とビジネストレンド知識の理解度を高め、目標となる「DX検定スコア」を取得するためには、継続的な学習が不可欠です。

以下に、eラーニング講座をご紹介します。（※参考書、eラーニング教材は予告なく最新のものに更新されます）

「DX検定™」準拠学習教材

「DX Study™2025 eラーニング」

利用可能期間：3ヵ月

株式会社ネクストエデュケーションシंक

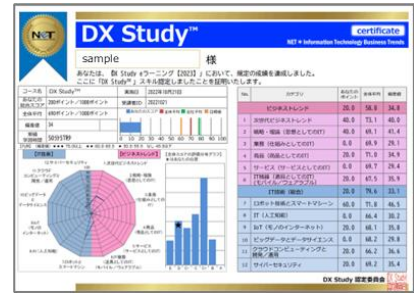
※内容は半年ごとに最新版に更新されます。



<回答画面>



<解説一覧>



<修了証サンプル>

7. 第14回「DX検定™」開催日程

「DX検定™」開催概要

(DX人材の可視化検定)

申込・詳細URL: <https://www.nextet.net/kentei/test/index.html>

検定名	「DX検定™」(日本イノベーション融合学会)
受検の概要	対象者: 個人の受検と企業申し込みの社員など。検定後に学会の検定サイトで全体の結果を発表。認定者には学会の検定委員会承認の「認定証」が発行されます。 ※企業の人材のDXレベルでの組織分析オプションも提供可能。
試験概要	60分間で120問の知識問題(多肢選択式)を出題。 Web受検 PC、タブレットでの受検が可能
出題問題	最新IT技術分野・ビジネストrend分野全般の必須知識項目から出題 推奨参考図書はWebサイトで案内
受検料	6,600円(税込) (検定サイトから、①法人申し込みでの事前受付、②個人申し込み)
第14回開催日	(法人) 2025年1月23日(木) (個人) 2025年1月26日(日) ※お申込み開始は2024年10月上旬を予定しております。
検定結果発表予定	検定実施日の1カ月後を予定。